

練馬区議会議員(無所属)

かとうぎ 桜子

区政レポート



2012 年 5 月号 (議会報告通号 vol.53)

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102

電話 03-3978-4154 FAX 03-3978-4158

メールマガジン発行中!



2012 年 4 月 27 日、区政報告会にて(勤労福祉会館)

生活に密着した政策を届けるのが議員の使命

目に見えづらい課題が増える中で

4月27日夜、大泉学園駅近くにある勤労福祉会館で区政報告会をおこないました。

当日は定例会での議論のご報告をさせていただいた後、参加者のみなさんにご意見を出していただきました。

皆さんからは、

「議会を見に行きたいと思うが、平日の昼間では行かないので、夜間や土日にもやって欲しい。」

「何十年も前の大泉は、泥を跳ね上げながら米軍の戦車が走っていて、住民みんなが困っていた。今はそういう目に見える困りごとがないので、区政の課題が見えにくい。」

「テレビで国政のことを見ると、なんだか政治家同士が喧嘩ばかりしていて、何をやっているんだろうという不信感を持つ。」

「メディアで言っていることじたい、何が本当なのか、何を信じていいのか分からない。」

といったご意見をいただきました。

今の日本社会の困りごとは、道路の整備のように目に見えやすい問題ばかりではありませんし、区民のみなさんが、お忙しい毎日の中で、生活に密着した政策の正確な情報が入手しづらい状況にあることを改めて感じました。

このレポートでできる限り多様な課題の正確な情報をお届けし、皆さんと意見交換する機会を作ることが私の使命のひとつであると感じております。

二〇一二年五月

かとうぎ 桜子

ドイツのエネルギー政策に関するドキュメンタリー映画

「第4の革命 エネルギー・デモクラシー」(2010年制作、83分)

日時: 6月16日(土) 午後6時30分

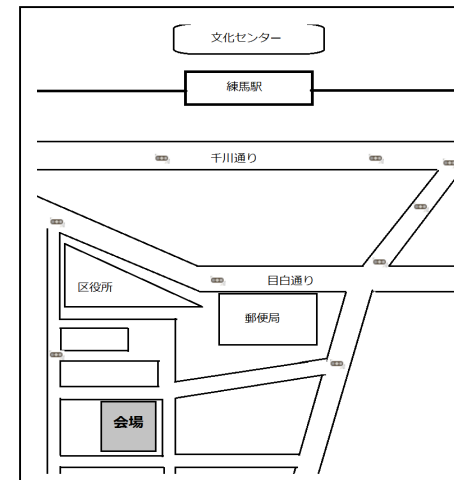
参加費: 一般 1000円 中高生 500円

場所: 生涯学習センター(旧練馬公民館)ホール

練馬区豊玉北 6-8-1 練馬駅下車

練馬区役所の駐車場から徒歩3分ほどの場所です。

主催: 核・原発のない未来を子どもたちに@練馬



2010年、ドイツでもっとも観られ、その後のドイツのエネルギー政策に影響を与えたドキュメンタリー映画である。この映画では、これから30年以内に100%再生可能エネルギーへのエネルギーシフトが可能だということを、様々な角度から分析し、紹介する。

映画上映の主催団体は、脱原発をめざす区民の方々が作っている会です。かとうぎ桜子はその趣旨に賛同し、チケットをお預かりしています。観覧ご希望の方は、かとうぎ桜子に直接お声かけいただくか、以下の振り込み先にご住所をご記入の上、お申し込みください。チケットを郵送させていただきます。

【郵便振り込み・口座番号】00130-2-496362 市民ふくしフォーラム

(「第4の革命チケット」とお書きください。)

この夏、福島に出かけませんか?

(8月4日、5日の予定)

「一人ひとりが大切にされる社会の実現をめざし、知恵や情報の交換、ネットワークづくりができる《場》」を作りたいことを理念に掲げている、「we」という雑誌があります。たとえば児童相談所の職員や学校の教師が日々感じていることを綴った連載、福島の放射能の問題にとりくむ人へのインタビューなど、なかなか一般のメディアでは得られないような情報や視点があって、私は愛読しています。

この「we」の読者、そして読者じゃない人もともに集まっていろんなテーマで議論をする「weフォーラム」が毎年夏に開かれます。

このフォーラム、今年は、福島で開催予定。福島の人たちとともに、放射能の問題を考える会が中心になる予定です。私も足を運びたいと考えています。みなさんも、この機会にご一緒に出かけて、福島のことを一緒に考えませんか?

8月4日の朝に車で大泉を出発し、フォーラムに参加して宿泊、5日に帰ってくる予定です。宿泊先や費用などは未定で、次回レポートでご案内したいと思いますが、ご関心のある方にはフォーラムの詳しい内容などもご案内もさせていただきますので、まずはぜひ、かとうぎ事務所にご一報ください。

かとうぎ桜子プロフィール

- 1980(昭和55)年生まれ。桐朋女子中学・高校、慶應義塾大学文学部を卒業。大学在学中にホームヘルパー2級の資格を取得、さらに福祉の勉強をするために上智社会福祉専門学校(夜間)に学ぶ。
- NPOにて介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く関わることをめざし、2007年、区議会議員選挙に初挑戦、初当選。
- 2010年3月立教大学大学院・21世紀社会デザイン研究科を修了。
- 2011年4月、練馬区議会議員選挙にて2期目に当選。
- 健康福祉委員会、災害対策等特別委員会に所属。【資格】社会福祉士、保育士、中学校教員免許(国語)、ホームヘルパー2級。

かとうぎ桜子事務所

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102

電話 03-3978-4154 FAX 03-3978-4158

HP <http://www.sakurako-nerima.com/>

メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp

このレポートを、ぜひお知らせに配布していただきませんか?
何部でも結構です。ご協力いただける方はご連絡ください。



低いがん検診受診率の改善を

第一回定例会の予算委員会で、様々な課題を指摘しましたが、今回のレポートではがん検診の受診率についてご紹介します。

千円以下で受診できるのに

練馬区では、がん検診を安く受けられるように助成をしていて、区が指定する医療機関で受ければ千円以下で受診ができます。（たとえば子宮頸がん700円、大腸がん1000円、肺がん300円など）

それにもかかわらず、下の表にあるように、受診率は極めて低いのです。

ちなみにこの「受診率」は、会社の健診を受けている可能性や全額自己負担で受けている可能性を割り引いて算出しているそうです。

一番低いのは胃がん検診で7.4%。一番多い大腸がん検診でも22.2%程度です。

練馬区は、区民のがん検診の受診率が50%以上に引き上げていきたいという目標を持っていますが、到底およびません。

低い受診率の原因は、

- ・これだけ安く検診が受けられることを知らない区民が多い。
- ・自分が対象になる検診が何かを知らない区民が多い。
- ・「自分はまだ健康だから受診しなくても大丈夫」または「検診によって病気が見つかったらショックだから嫌だな…」という理由で受診しない人が多い。
- ・ということが考えられるのではないのでしょうか。

練馬区は対策として、
・検診の対象年齢などがわかりやすいパンフレットを作ったの啓発を進める。
・しばらく受診していないと思われる区民をピックアップして個別に勧奨する。
といった対策をうっています。

私は、それに加えて、がんが早期発見できない場合に生活上に与える影響について、詳しく啓発する必要があると指摘しました。

体験を活かし、子宮頸がんの啓発を進めます。

3月中旬から下旬にかけて、病気による休業をさせていただきました。4月に駅でのレポート配布を再開したときには、多くの方からご心配のお声かけをいただきました。ありがとうございました。

「子宮頸がん」の診断を受けて治療をしておりましたが、4月16日に検査の結果が出て、完治したことが分かりました。この体験を活かして、少しでも多くの方ががん検診の受診により早期発見につながればと考え、病名を公表し、ブログに体験談を書いております。ここでも一部、ご紹介します。

子宮頸がんは、そのほかのがんが40代以降に増えるのと比べて、20代からかかる可能性のあるがんと言われます。一方で、検診による早期発見が一番しやすく、多くの場合は「前がん状態」の段階で発見することができるといわれます。

練馬区からの助成は2年に1回ですが、できれば1年に1回は検診を受けたほうが良いというお医者さんが多いようです。

検診の方法は、膣に器具を入れて細胞をこすり取る形で行います。痛くはないのですが、女性にとって心身の負担が大きいため、なかなか受診にいたらないという現実があると思います。

たまたま受けた検診で発見

私も、本当は1年に1度行った方が良いと思いつつ、2011年末、2年ぶりに検診を受けました。そこで、「異常が見つかったから精密検査を受けたほうが良い」と言われ、さらに精密検査の結果、「がんの疑いがある」と言われたのでした。

不正出血など、自覚症状は何もありませんでした。たまたま、「定期的に検診を受けなくちゃ」と受けた結果で見つかったのです。

しかも、先に書いたように大半の子宮頸がんは前がん状態で見つかるのですが、私は「腺がん」というもので、とても見つかりづらく、進行も早く、転移しやすいものだと言われたのです。

子宮全摘をする必要もあるかもしれないといわれ、どうなるか分からない不安な状態で2カ月ほどの時間を過ごしました。

簡単な手術とはいえ、やはり大変

ひとまず一番簡単な、内視鏡による一部切除の手術をして、切除した部位を検査することでがんの広がりを確認することになりました。

3月中旬から4日間、入院し、手術をしました。手術じたいは1時間ほどですべて終わる簡単なもので、レーザーで切るので出血も少なく、縫う必要もないというものでした。

開腹手術に比べたら楽だし、仕事復帰もしやすいと聞いていたのですが、そうはいっても術後はやはり辛かったです。

手術のあのかさぶたがはがれる時には出血をする可能性があるといわれていましたが、3月末に大出血をしました。すぐに病院に行き、少し開いた傷口を縫ってもらうことで出血は大幅に改善されて体調も回復し、4月6日からは駅での演説も再開しました。

初期のがんで完治

腺がんという難しいがんである可能性があったため、一度の手術で完治するかどうかは分かりませんでした。場合によっては再び入院し、今度は子宮全摘の手術が必要になるかもしれない状態でした。

しかし、幸運にも、腺がんも含めて上皮内という、子宮の入り口付近でとどまっていたことが分かり、これから先は再発の有無の検査を定期的に受けるだけで、服薬も必要ない状態で済みました。

今後は再発をしないようにしていかなければならないし、せっかくの経験を生かして、みなさんの健康づくりの政策に役立てたいと考えています。

入院中の体験談などもブログに載せておりますので、ぜひご覧ください。

練馬区民のがん検診受診率

